

令和5年度 学校評価書

松山市立味生第二小学校

【肯定率 4:十分達成 3:おおむね達成 2:あまり達成されていない 1:不十分】

項目	重点目標	番号	評価指標及び目標値(期待される姿)	評価資料	R4 肯定率	R5の結果(%)					学校の考察及び改善方策(◆)	学校関係者 評価委員会 の評定
						肯定率	4	3	2	1		
児童の姿	(徳)	①	進んで挨拶・(会釈)ができるか。 ※目標値:児童・教職員・保護者の90%以上が肯定	児童アンケート	90.5	87.3	53.8	33.3	11.7	1.2	・教職員の肯定率は大きく上がっている。運営委員を中心とした挨拶運動や昼の放送での挨拶名人の紹介等を継続的に行っていることが一つの要因として考えられる。しかし、その挨拶が校内だけにとどまっている児童もあり、特に地域の方への登校時の挨拶は課題である。 ◆挨拶や会釈についての放送での呼び掛けや学級指導、生活目標への設定などを通して、今後も継続的に意識を高めていく。	A
			教職員アンケート	54.5	73.5	5.88	67.6	26.5	0			
			保護者アンケート	69.4	67.8	19.4	48.4	27.8	4.4			
			学校評議員	84	100	100	0	0	0			
		②	毎日、学校を楽しみにして登校しているか。 ※目標値:児童・保護者の90%以上が肯定	児童アンケート	87.6	89.8	61.9	27.8	6.8	3.5	・新型コロナウイルスが第5類となり、学校生活や学校行事等への制限が解消されたことで、児童の肯定率が昨年度より上がったと考える。しかし、目標値の90%にはまだ達していないため、今後も児童が登校したいと感じるような魅力的な学校づくりを進めていきたい。児童の肯定率が上がっている一方で、保護者の肯定率は昨年度より下がっている。児童が家庭で話す学校生活の様子や朝の表情から心配されていると考える。 ◆学年だよりやHP等で学校生活の様子を積極的に発信するとともに、何かあった際には学校と家庭が積極的に連絡をとり、安心して児童を送り出せる環境づくりを進めていきたい。	A
	保護者アンケート		85.0	83.8	36	47.8	12.1	4.04				
	学校評議員		100	100	80	20	0	0				
	③	しなければならないことをやり遂げることができるか。 ※目標値:児童・教職員・保護者の90%以上が肯定	児童アンケート	91.9	91.5	56.9	34.5	7.2	1.4	・児童及び教職員の肯定率は目標値の90%を越えているものの、保護者アンケートの結果は昨年度より下がり、72%となっている。保護者は自分の子どもに対して厳しく評価する面はあるが、児童及び教職員と保護者との肯定率の差が20%の開きがあることは課題である。 ◆児童も教職員も、本項目に対して90%以上肯定的捉えているため、電話連絡をした際や個別懇談など機会を捉えて積極的に児童が頑張っている姿や伸びを保護者に伝えることで、保護者からも児童を褒めていただき、本項目の肯定率を上昇に繋げていきたい。	A	
		教職員アンケート	97.0	94.1	2.94	91.2	5.88	0				
		保護者アンケート	77.0	72.3	19.3	52.9	23.7	4.0				
		学校評議員	100	100	80	20	0	0				
	④	正しく判断して行動しているか。 ※目標値:児童・教職員・保護者の90%以上が肯定	児童アンケート	90.5	89.1	53.1	36.1	9.6	1.2	・評価が微減している。コロナウイルスによる制限が緩和されたこと、学校の大規模改修工事により様々な制限があること等により、新たな判断の基準が生まれ、それに対応している最中である。 ◆児童は様々な環境の変化の中で、それに対応しようとしている。そうした中で、今後も、正しい行動や頑張りへの称揚や、だめなことはだめとする毅然とした態度での指導を大切にしていこう。	A	
		教職員アンケート	93.9	91.2	8.82	82.4	8.82	0				
		保護者アンケート	78.6	78.5	12.4	66.1	20.1	1.5				
		学校評議員	100	100	100	0	0	0				
⑤	相手を思いやる優しい心が育っているか。 ※目標値:児童・教職員・保護者の90%以上が肯定	児童アンケート	86.1	90.3	57.4	33.3	7.2	2.1	・児童アンケートの肯定率が昨年度より上がり、目標値の90%を越えている。本校の目指す「まごころ教育」が浸透してきた結果だと感じる。 ◆保護者アンケートの結果が昨年度より下がっているため、学校ホームページや懇談、電話連絡の際など機会を捉えて、児童の優しさあふれる姿を具体的に保護者に伝えていきたい。	A		
	教職員アンケート	100.0	100.0	29.4	70.6	0	0					
	保護者アンケート	89.1	86.8	26	60.8	11.7	1.5					
	学校評議員	100	100	100	0	0	0					
⑥	課題について自分の考えをもち、伝え合うなどして、その課題に積極的に取り組み、解決しようとする態度が育っているか。 ※目標値:児童・教職員・保護者の80%以上が肯定	児童アンケート	78.9	80.4	40.5	39.4	16.5	3.5	・児童の評価、教職員評価共に上がっている。特に教職員の評価は大きく伸びている。課題解決を重視した授業づくりや、まごころタイムの充実に向けてなど授業改善への意識が高まっているからだと考える。それに対して、保護者のポイントは下がっている。学校が目指している学びの在り方について知ってもらう必要がある。 ◆引き続き、子どもが主体となる授業づくりを進めていく。HPや授業参観等で保護者に本校が目指す授業づくりを知ってもらう場をつくる。	A		
	教職員アンケート	72.7	94.1	5.88	88.2	5.88	0					
	保護者アンケート	65.7	64.8	17.6	47.3	29.3	5.9					
	学校評議員	83	100	20	80	0	0					
⑦	家庭学習の習慣が身に付いているか。(10分×(学年+1)) ※目標値:児童・教職員・保護者の80%以上が肯定	児童アンケート	77.5	79.0	48.2	31	15.2	5.6	・児童、保護者のポイントは上がっているが、教職員の評価は微減している。児童にとっての家庭学習は宿題をすればよいと感じているのではないだろうか。それに対して、教職員、保護者は宿題プラスの学習が必要で、そのことを含めて目安時間に到達していないと判断していると考えられる。 ◆家庭学習について、学年に合った内容・量になっているか検討する。自分で学習を進める「自学」の進め方を指導するとともに、共有し、児童が自主的に取り組む学習習慣を目指したい。	A		
	教職員アンケート	81.8	79.4	17.6	61.8	20.6	0					
	保護者アンケート	55.8	56.9	20.3	36.6	32.2	10.9					
	学校評議員	100	100	40	60	0	0					
⑧	読書習慣が身に付いているか。 ※目標値:児童・教職員・保護者の80%以上が肯定	児童アンケート	83.5	84.3	65	19.3	11.6	4.2	・児童、教職員共に上がっている。今年度、各学年の図書館利用の日を設定したことで、常に自分が読む本をそばにおいておく環境ができてからだと考える。それに対して保護者のポイントは下がっている。家庭で読書をする姿が見られないからではないだろうか。学年相応の内容・量になっているかも課題が見られる。 ◆家庭学習に読書を設定したり、テーマを設定した読書活動を取り入れたりするなど読書習慣の定着に向けて活動の工夫に努める。	A		
	教職員アンケート	72.7	79.4	5.9	73.5	20.6	0					
	保護者アンケート	49.8	46.7	15.9	30.8	30.8	22.5					
	学校評議員	67	80	0	80	20	0					

項目	重点目標	番号	評価指標及び目標値(期待される姿)	評価資料	R4 肯定率	R5の結果(%)					学校の考察及び改善方策(◆)	学校関係者 評価委員会 の評定
						肯定率	4	3	2	1		
児童の姿	確かな学力の育成(知)	⑨	国・県等の学力調査や体力に関する調査等の結果を分析し、指導に生かしているか。 ※目標値:教職員・保護者の90%以上が肯定	教職員アンケート	81.8	97.1	8.82	88.2	2.94	0	・教職員の肯定率が大きく上がり、保護者のポイントは微減している。分析結果を全体で共有し、授業改善への意識を高めることができたからではないだろうか。 ◆来年度も各種学力調査等の学年のみでなく、全教職員で学力調査の内容、結果の分析等を共有し、授業改善に生かすことができるようにする。	A
				保護者アンケート	87.0	86.6	21.3	65.3	12	1.39		
				学校評議員	100	100	100	0	0	0		
		⑩	将来に夢をもち、自分の進路や生き方について考える児童を育てているか。 ※目標値:教職員・保護者の90%以上が肯定	教職員アンケート	90.9	82.4	2.94	79.4	17.6	0	・キャリア教育の視点をもった授業を行う教師の姿の評価が昨年度より下がっている。保護者の肯定率は昨年度に比べると上がっているが、低い。しかし、全国学力・学習状況調査の質問紙調査では、本校の6年生(83.4%)は、全国平均(81.5%)より肯定率が1.9%高い。 ◆今年度、5年生で「なりたい自分」について考えさせる研究授業を行った。今後も自らのキャリア形成を図るためにどうしたらよいかを考えさせる授業について教職員間で研修を深めていくなどキャリア教育の充実を図っていく必要がある。	A
	保護者アンケート	78.4	79.5	17.9	61.5	15.9	4.62					
	学校評議員	100	100	60	40	0	0					
	⑪	教科等の指導においてタブレットの活用等、効果的にICT機器を活用しているか。 ※目標値:教職員・保護者の90%以上が肯定	教職員アンケート	90.9	97.1	32.4	64.7	2.94	0	・教職員の肯定率が大きく上がり、保護者のポイントは微減している。タブレットの活用について教職員一人一人の意識、スキルが上がったからだと考える。 ◆継続してタブレットを活用した教科指導の在り方について研修し、授業力を高めていきたい。	A	
	保護者アンケート	85.9	84.1	30.8	53.3	15	0.88					
	学校評議員	100	100	80	20	0	0					
	⑫	言語活動の充実及び展掲示の工夫等環境整備に努めているか。 ※目標値:教職員の90%以上が肯定	教職員アンケート	93.9	97.1	14.7	82.4	2.94	0	・教職員の肯定率が上がり、保護者のポイントは微減している。互いのよさを伝え合う「まごころカード」の掲示や全校俳句など、言語環境の工夫充実がなされたことが要因だと考える。 ◆今後も、児童の実態に合ったよりよい言語環境について考え、工夫していきたい。	A	
	保護者アンケート	94.4	94.0	31.5	62.5	6	0					
	学校評議員	100	100	100	0	0	0					
体づくり(体)	⑬	「①早寝・②早起き・③朝ご飯」の習慣が身に付いているか。 ※目標値:児童・保護者の90%以上が肯定	児童アンケート	85.2	83.9	55	28.9	9.8	6.3	・児童、保護者ともに、昨年度より下がっている。特に①が大幅に下がっていた。児童との会話の中で、ゲームをしていて寝る時間が遅くなったことや、夜寝る前に教時間テレビを見ている等、聞くことが多い。 ◆メディアと上手な付き合い方を伝え、早寝・早起き・朝ごはんの大切さや、身体に及ぼす影響について指導する必要がある。	A	
			保護者アンケート①	62.0	58.8	20.6	38.2	29.4	11.8			
			保護者アンケート②	67.4	67.3	25.5	41.8	24.4	8.4			
			保護者アンケート③	80.9	80.5	46.3	34.2	15.8	3.7			
			学校評議員	100	100	20	80	0	0			
	⑭	「自分の命は自分で守る」意識が育ってきているか。 ※目標値:児童・教職員・保護者の90%以上が肯定	児童アンケート	95.9	95.7	78.6	16.7	3.9	0.9	・教職員は上がっているが、児童・保護者は微減している。コロナウイルスによる制限の緩和で、放課後の交友関係の広がりが生まれた反面、様々な場所での遊び方や自転車の乗り方などに対する指導の必要性も増している。 ◆日々の学級指導や長期休業前の全校指導において、交通安全をはじめ、自然災害や不審者、感染症等、様々な場面で自分の命(安全)を守る意識を高めさせたい。また、この意識については特に、家庭との連携や協力が大切であると考えている。	A	
	教職員アンケート	90.9	94.1	23.5	70.6	5.88	0					
	保護者アンケート	83.3	82.8	19.1	63.7	16.8	0.4					
学校評議員	100	100	80	20	0	0						
学校関係者 委員会の 意見	・挨拶は通学班長がよくできる班はみんなしっかりとすることができている。班長への指導が大切である。 ・「ありがとう」が自然と言える習慣づくりをしてほしい。 ・子どもたちの表情がよく、よいコミュニケーションが取れている。 ・毎日の校長の挨拶運動が子どもたちの励みになっている。				今後の対応					・挨拶については、普段から運営委員による挨拶運動で、挨拶名人を紹介したり、地域住民からいただいたお褒めの言葉を全校で紹介したりするなどして、啓発活動が続いているが、まだ不十分である。今後も明るい挨拶が響き合う学校を目指して挨拶の啓発を行っていく。 ・学力については、6年生が行った全国学力・学習状況調査で全国平均・県平均を国語、算数ともに大きく上回る成果を上げることができた。しかしながら、家庭学習が定着していないという保護者からの評価を得ている。また、学級間の宿題の差も指摘されているので、宿題についても学年部で相談して適量を出すようにしていく。自分で学習を進める「自学」の進め方も指導していく。 ・読書については、学年で本を借りる日を設定するなど、読書習慣が身に付くような手立てを講じてきたが、保護者からの評価が低いので、家庭での読書習慣が身に付いていないことが分かった。今後は家庭と連携して子どもたちの読書に対する関心を高めていきたい。		

項目	重点目標	番号	評価指標及び目標値(期待される姿)	評価資料	R4 肯定率	R5の結果(%)					学校の考察及び改善方策(◆)	学校関係者 評価委員会 の評定
						肯定率	4	3	2	1		
学校 の 姿	信頼 される 開 かれた 学校	⑱	学校は、教育活動の充実に向けて地域や保護者と連携・協力しているか。 ※目標値:教職員・保護者の90%以上が肯定	教職員アンケート 保護者アンケート 学校評議員	100 94 100	100 95 100	38 28 100	62 67 0	0 5 0	0 0 0	・教職員、保護者共に高い数値で目標値を達成している。今年度は新型コロナウイルス感染症も5類に下がり、学校参観の人数制限を撤廃し、たくさんの方に学校や子どもたちの頑張りを見ていただくことができた。また、コミュニティ・スクール(CS)も2年目となり、地域や保護者の方々の連携も軌道に乗ってきたことによるものと思われる。 ◆来年度以降もCSを推進していき、たくさんの方々の地域や保護者の方々から評価していただけるよう誠意ある対応をしていく必要がある。また、学校内外のいろいろな方々の意見に耳を傾け、真摯に対応できる学校でありたい。	A
		⑳	学校は、学年だよりやホームページ、MACメール等により、積極的に情報を発信しているか。 ※目標値:教職員・保護者の90%以上が肯定	教職員アンケート 保護者アンケート 学校評議員	94 92 100	100 93 100	65 43 100	35 50 0	0 7 0	0 0 0	・教職員、保護者とも目標値を達成している。昨年度よりも数値が上がっている。ホームページは毎日更新して学校の様子を家庭や地域に発信している。特に今年度は、校舎の長寿命化工事が始まったので、松山市教育委員会からの情報を基に工事の様子についても発信している。 ◆今後も、学校の取組についてはホームページや学年便りで家庭や地域に積極的に発信を続けていく。	A
		㉑	学校は、子どもに交通安全やけが等の防止について適切な指導を行うとともに、安全な環境づくりに努めている。 ※目標値:教職員・保護者の90%以上が肯定	教職員アンケート 保護者アンケート 学校評議員	100 91 100	100 90 100	50 27 100	50 63 0	0 10 0	0 0 0	・教職員、保護者とも目標値を達成している。教職員は、日々の下校指導を協力して行うことを大切にしている。また、毎年実施している自転車教室や歩き方教室での指導、長期休業前の交通安全指導は今後も大切にしたい。 ◆今後も日々の学級指導や登下校指導等を通して、危険な行動の未然防止や早期発見に努めたい。	A
		㉒	学校は、家庭と連携して一人一人の健康状態を確認するとともに、環境衛生の維持・改善を行い、子どもの健康保持・増進に努めている。 ※目標値:教職員の90%以上が肯定	教職員アンケート 保護者アンケート 学校評議員	97 95 100	100 93 100	41 29 100	59 64 0	0 5 0	0 2 0	・教職員、保護者とも目標値を達成している。 ◆毎日の健康観察で担任と養護教諭が児童の健康状態を把握し、一人一人に合った対応をする。また、学校薬剤師の助言から、環境衛生の維持、改善を行う。	A
		㉓	学校は、「換気の確保」や「手指衛生等の指導」など、状況に応じた感染症対策を適切に行っているか。 ※目標値:教職員・保護者の90%以上が肯定	教職員アンケート 保護者アンケート 学校評議員	97 91 100	100 94 100	50 27 100	50 67 0	0 6 0	0 0 0	・教職員、保護者とも目標値を達成している。感染症対策がきちんと身に付いている。 ◆今後も継続して、手指衛生等できていない児童には呼び掛けを行う。	A
		㉔	特別支援教育の視点をもって取り組み、個に応じた配慮や指導を適切に行っているか。 ※目標値:教職員・保護者の90%以上が肯定	教職員アンケート 保護者アンケート 学校評議員	94 91 100	100 91 100	38 28 80	62 63 20	0 7 0	0 2 0	・教職員、保護者とも目標値を達成している。保護者や児童の願いを聞くなど合理的配慮をしながら対応を行っている。 ◆今後も子ども一人ひとりの教育的ニーズにこたえる合理的配慮を行い、個に応じた支援を行っていく。	A

項目	重点目標	番号	評価指標及び目標値(期待される姿)	評価資料	R4 肯定率	R5の結果(%)					学校の考察及び改善方策(◆)	学校関係者 評価委員会 の評定
						肯定率	4	3	2	1		
学校の姿	信頼される開かれた学校	⑳	学校は、管理職や学年主任等を中心とした組織的な対応を行っているか。 ※目標値:教職員・保護者の90%以上が肯定	教職員アンケート	100	94	35	59	6	0	<p>・教職員は目標値を達成しているが、保護者については昨年度より数値が下がり、目標値を下回っている。保護者の声が管理職や学年主任に情報として入ってくるような風通しのよい職場づくりに努めていく必要がある。 ◆今後もどのようなことでも話し合える風通しのよい職場環境づくりを目指し、管理職や主任職中心に組織的に対応を行っていく。また、保護者からの相談事には丁寧に迅速に対応していく。</p>	A
			保護者アンケート	93	86	21	65	11	3			
			学校評議員	100	100	80	20	0	0			
学校の姿	信頼される開かれた学校	㉑	学校は、小1プロブレムや中1ギャップの解消につなげるために、関係園・校で連携し、児童の学校生活に対する不安感の軽減を図っているか。 ※目標値:教職員・保護者の90%以上が肯定	教職員アンケート	91	97	15	82	3	0	<p>・小1プロブレムや中1ギャップの解消につなげるために、2月から3月にかけて関係園・校の先生方と園児や児童の様子や配慮すべき点について対面や書面、電話等による綿密な引き継ぎを行っているため、教職員アンケートの肯定率が97%となっていると考える。 ◆昨年度に続き、保護者の肯定率が80%に留まっているから、保護者の方には関係園・校との情報共有が十分にできていないと感じる場面があると考えられる。引き継ぎの内容が確実に新1年生の学級担任に伝わり、安心して保護者の方が児童を通わせられるよう手立てを講じたい。 ◆今年度は大規模改修工事のため、新1年生の体験入学を実施できなかった。新入児にとって小学校の教室に入ったり在校生と関わる機会が入学への不安を軽減する上でも大切だと考える。来年度は実施したいと考える。</p>	A
			保護者アンケート	80	80	20	60	18	2			
			学校評議員	100	100	100	0	0	0			
学校の姿	信頼される開かれた学校	㉒	学校は、教育の質の向上のために関係園・校で連携し、学校間の系統性を重視した学習指導を行っているか。 ※目標値:教職員・保護者の90%以上が肯定	教職員アンケート	88	88	12	76	12	0	<p>・目標値の90%には達していないものの、味生小学校、津田中学校とは、味生地区3校でのコミュニティ・スクールの指定も受け、それぞれの学校の取り組みや児童・生徒の様子について情報交換したり、夏休みに人権同和教育の研修会を合同で開いているため、高い数値を示していると考ええる。 ◆新型コロナウイルスが5類となったものの、参観日や学校行事等の際に関係園・校への案内ができていない。関係園・校にも参観日の案内を送ったり、逆に参観させていただいたりする中で、それぞれの校種の学びの姿を知り、系統性を重視した学習指導へとつなげていきたい。</p>	A
			保護者アンケート	87	84	21	63	15	2			
			学校評議員	100	100	80	20	0	0			
学校の姿	信頼される開かれた学校	㉓	学校は、関係園・校で連携し、児童に対する教職員の理解や、児童の相互理解の促進を図っているか。 ※目標値:教職員・保護者の90%以上が肯定	教職員アンケート	87.9	97.1	17.6	79.4	2.94	0	<p>・教職員の肯定率が97.1%となり、関係園・校との連携して児童理解を促進できていると考えられる。今後もコミュニティ・スクールの取り組みを生かして関係園・校との連携を密にし、児童理解を深めていきたい。 ◆昨年度と比べると保護者アンケートの肯定率が下がっている。関係園・校と連携して児童に対する教職員理解や児童の相互理解の促進を図っている様子を学校ホームページなどを通じて保護者に知らせていきたいと考える。</p>	A
			保護者アンケート	86.8	80.6	20.1	60.4	17	2.2			
			学校評議員	100	100	80	20	0	0			
学校関係者 評価委員			・不登校の子どもが家を出るきっかけづくりのために地域の力を生かしたらよい。 ・学校だけで抱えることが困難なことには、コミュニティ・スクールを活用して、いろいろな人が関わっていきけるようにするとよい。			今後の対応					・本校は、昨年度より教育課程研究指定校として、コミュニティ・スクールを立ち上げ、研究・実践を行ってきた。今年度も様々な授業や行事で学校応援ボランティアの皆様をサポートをしていただき、多大なる成果を上げることができた。実践を重ねていくことで、「地域からの協力」、「教育活動の充実」、「教職員の業務改善」などの手応えを感じる事ができた。そして、子どもたち一人一人の豊かな学びと育ちを支え、持続可能な教育活動を実施していくためには、学校と保護者・地域が連携・協働することが重要であることを再認識することができた。今後は、「地域の活性化」につながる活動にも取り組んでいきたい。	